

なし黒星病の防除を徹底しましょう！

6月上旬のなし巡回調査では、黒星病の発生ほ場率は10.7%（平年比：55%）でした。平年よりやや少ない結果でしたが、気象庁発表の1か月予報（7/6～8/5）では、降水量が平年並か多いと予想されており、多湿により本病の発生が多くなる可能性があります。そのため、今後の発生増加に十分な注意が必要です。ほ場内をよく観察し、適期防除を行いましょう。

◎防除対策

- ・黒星病は感染から発病までに15日程度の潜伏期間があるため、予防散布に努める（表1）。
- ・発病した果そう、葉、果実（写真1～3）は2次伝染源となるので、見つけ次第除去してほ場外に持ち出し、埋却等により適切に処分する。
- ・現在、葉に発生が多く見られるほ場では、治療効果のある薬剤を散布する。
- ・化学農薬に対する抵抗性発達を防止するため、表1のRACコードを参考に、ローテーション散布する。



写真1 果そうの病斑



写真2 葉の病斑



写真3 果実の病斑

表1 なし黒星病に登録のある主な防除薬剤

（令和6（2024）年6月21日現在）

農薬の名称	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	有効成分の名称	RACコード	効果
オキシラン水和剤	収穫3日前まで	500～600倍	9回以内	キャプタン・有機銅	F:M04・M01	殺菌 (予防)
キノンドーフロアブル	収穫3日前まで	1000倍	9回以内	有機銅	F:M01	
ストロビードライフロアブル	収穫前日まで	3000倍	3回以内	クレソキシムメチル	F:11	殺菌 (治療)
フルーツセイバー	収穫前日まで	1500～3000倍	3回以内	ベンチオピラド	F:7	

*RACコードF:3、F:7、F:11は耐性菌発生防止のため、あわせて2回以内の使用とする。

詳細は農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL:028-665-1244）までお問合せ下さい。病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！